

おおさか水土里のシンポジウム

みんなで進める農空間づくり～農のあるライフスタイルを考える～ を開催

12月19日(水) 大阪市の「大阪府立青少年会館文化ホール」において、近畿農政局、大阪府、水土里ネット大阪主催、産経新聞社共催による「おおさか水土里のシンポジウム」が開催され、一般市民など約800人が参加しました。

このシンポジウムは、農業や農村が持つ多面的機能の重要性について認識を深めるとともに、大阪府が都市農業と農空間の公益的機能の発揮を通じ、健康的で快適な暮らしの実現、安全で活力と魅力に満ちた都市づくりの推進に寄与する事を目的として「大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例」(H20.4 施行)を制定した中で、農空間を農業者だけでなく地域住民などの多様な参画のもとで守り育てていく手法について、私達の日常生活と「農」の関わりから考えてもらうために開催したものです。



三輪大阪府副知事の挨拶に続き、昨年から出身地新潟で古代米作りに挑戦しているタレントの大桃美代子さんから「ロハスな農業」と題し、自身の農業体験の話や、「農業は国を支えているということをお阪のような消費地の方々に知っていただきたい。私は農業者と消費者、都会と地方を結ぶシステム作りをしていきたい」などと農に対する想いについて基調講演がありました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、パネラーに芝尾健氏(金岡まちづくり推進協議会)、美濃原弥恵氏(アクアフレンズ代表世話人)、山内美陽子氏(谷町空庭)、山下一仁氏(農村振興局次長)、大桃美代子氏、コーディネーターに増田昇氏(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授)が登壇し、「みんなで進める農空間づくり～農のあるライフスタイルを考える～」をテーマに議論が行われ、パネラーからは自身が取り組まれている活動等を通じて、「農のある暮らしをしたい都市住民と農家とのマッチングをしていきたい」、「農空間は潤いの空間、その想いを子供を通じて親へ、親から地域へと伝えていきたい」、「農家が農空間に入ってくる人を拒否してはいけない。農空間は野菜や米作りを通じた人作りの輪である」などの発言がありました。



また、山下農村振興局次長からは、農地や農業用水路などの資源や農村環境を保全する取り組みとして「農地・水・環境保全向上対策」の紹介があり、農家だけでなく地域のみならず地域資源を守っていき、「取り組みを通じて農業に関心を持つ人が出てきていただきたい」と熱い期待が述べられました。

最後に、前川近畿農政局次長が参加者に「農空間を楽しんでいただきたいと思います」と閉会の挨拶を行い、シンポジウムを締めくくりました。



会場ロビーでは、「農地・水・環境保全向上対策」などのパネル展示と、大阪採れたて農産物消費推進協議会による農産物直売所が設けられ、地元農産物を買求める多くの参加者で賑わいました。

参加者から回収したアンケートには、「農業が身近に感じられた」、「日本の国土を美しくしているのは農家のおかげであると思う」、「生産者と消費者のネットワーク作りが大切と感じた」などのコメントが寄せられ、農業や農村が持つ多面的機能や、資源保全活動の理解につながる有意義なシンポジウムとなりました。

【設計課事業調整室】